



# 沖縄自生種との交配で ブドウの醸造用新品種「香大農R-1」育成

農学部 応用生物科学科 教授 望岡 亮介

## 研究シーズの概要

果樹の栽培技術の開発、新品種の育成、遺伝資源の園芸学的利用を領域とする果樹園芸学のうち、日本原産野生ブドウの遺伝資源収集が望岡研究室のメインテーマ。ここから2006年、農林水産省に種苗登録されたワイン用新品種「香大農R-1」が生まれました。

瀬戸内海性気候のように熱帯夜の続く地域で栽培されるブドウは、収穫時期になっても果皮が十分に着色しない着色障害（赤熟れ）が発生しやすくワイン製造に不向きとされていました。そこで、日本に分布する7種8変種の野生ブドウのうち、種と皮ばかりですが、ポリフェノール、アントシアニンを多く含む高温でも着色に優れている沖縄自生のリュウキュウガネブに注目。これを育種親に用いて栽培種のマスカット・オブ・アレキサンドリアと交配させた醸造用新品種の育成に成功しました。

この研究開発は1999年、香川大学と香川県、ワインメーカーとの共同でスタート。交配して得られた約1000粒の種の中から選抜して生き残った1系統を挿し木や接ぎ木をして新品種として確立しました。「香大農R-1」は香川大学農学部附属農場のほか香川県農業試験場、委託農家での試験栽培を行っており収量も多く栽培も簡単との評価を得ています。またこのブドウから造ったワインは、濃厚な色合いで渋みも少なくノド越しのよいフルーティなものに仕上がりました。「ソヴァージュ・サヴルーズ」（芳しき野生の乙女）の商標を香川大学が持っており大学発のブランド・ワインとしての発展が期待されています。



【利用が見込まれる分野】 果樹・樹園・施設園芸業、食料品製造業、飼料・有機質肥料、飲食品小売業

## 研究者プロフィール

望岡 亮介 / モチオカ リョウスケ



メールアドレス	mochioka@ag.kagawa-u.ac.jp
所属学部・学科	農学部・応用生物科学科
所属専攻	生物資源生産学大講座
職位	教授
学位	博士（農学）
研究キーワード	野生ブドウ、遺伝資源、機能性成分

問い合わせ番号：AG-07-007

本研究に関するお問い合わせは、香川大学社会連携・知的財産センターまで

直通電話番号：087-864-2522

メールアドレス：ccip@eng.kagawa-u.ac.jp

## 地球温暖化対策としての南方自生資源活用研究も

「香大農R-1」は成熟果の果皮中の各種フェノール含有量や抗酸化活性を精査、時期的萌芽率や着果習性などの精緻な学術的裏付けから誕生した醸造用優良新品種で、さらなる品種改良に取り組んでおり、インディジナスリソース（自生資源）を利用した新たな展開が期待されています。

野生ブドウについては、欧米種を中心に温暖地系については調査が進んでいますが、国内や南方系については手つかずの状態です。また、地球温暖化が進んでいるだけにブドウだけでなく園芸・果樹の全分野でも「南方野生資源の活用」がキーワードになっています。これらを背景に望岡研究室ではこれまでの実績をベースに他の研究室とともに四国及び近隣地域の有用自生植物資源を対象にした「インディジナスリソースを活用した新規園芸資源開発と地域ブランド化」の学内プロジェクトを立ち上げています。

このほか、リュウキュウガネブにポリフェノールやアントシアニンなどが多いことからワイン以外へのこれら機能性成分の活用を目指し、葉や樹液をも対象として発ガン抑制物質やアンチエイジング（老化防止）物質の発見などに取り組むことにしています。食品以外に医療、化粧品などへ夢も広がるだけに研究が5年、10年といったスパンであるものの成果に各方面から関心が寄せられています。

### ブドウ



リュウキュウガネブ

### キウイフルーツ



シマサルナシ

### キク



ナカガワノギク